

—— プログラム ——

特別講演：医療ビッグデータとこれからの医療

大江 和彦（東京大学）

メモリアル講演：臨床検査自動化の過去・現在・未来：高知から世界へ

杉浦 哲朗（高知大学）

教育講演Ⅰ：分子状水素による酸化ストレス軽減と遺伝子発現制御： 基礎医学から臨床応用へ

太田 成男（日本医科大学）

教育講演Ⅱ：IBM Watson の医療応用

武田 浩一（日本 IBM）

教育講演Ⅲ：体液マイクロ RNA によるがんの早期診断

落谷 孝広（国立がん研究センター）

教育講演Ⅳ：実践精度管理—精度管理から精度保証への転換—

池田 勝義（熊本大学）

シンポジウムⅠ：POC コーディネータとチーム医療の関わり

司会：坂本 秀生（神戸常盤大学）、福田 篤久（和泉市立病院）

1) 基調講演

「POC コーディネータとチーム医療の関わり ～私はこう考える～」

山崎 家春（東京医科大学）

2) 救急医療チームにおける POCC の役割

太田麻衣子（安房地域医療センター）

3) 糖尿病療養指導士からみた POCC の関わり

中川 裕美（倉敷リバーサイド病院）

4) 院内感染対策における POCC の関わり

竹澤 理子（三井記念病院）

5) 総合討論

シンポジウムⅡ：尿検査からわかること

司会：宿谷 賢一（東京大学）、和田 隆志（金沢大学）

1) 自動分析器の実際と有用性の検証

堀田 真希（大阪大学附属病院検査部）

2) 日常診療と尿沈渣

油野 友二（北陸大学）

3) 尿検査からわかる腎・泌尿器以外の疾患(病態)

菊池 春人（慶応義塾大学）

4) 尿検査と疾患：尿検査から得られる臨床情報

木村 秀樹（福井大学）

5) メタボローム：新たな尿検査への展望

平山 明由（慶応義塾大学）

湯澤 由紀夫（藤田保健衛生大学）

シンポジウムⅢ：血液検査の現場から一難題と、それを乗り切る創意工夫

司会：通山 薫（川崎医大）、志賀 修一（京都大学）

- 1) 末梢血白血球分類の自動化はどこまで信頼できるか？
増田亜希子（東京大学）
- 2) 体腔液検査の自動化と細胞評価—細胞診との絡みをどうすればよいか？
田部 陽子（順天堂大学）
- 3) DOACs 製剤モニタリングの検体採取方法と結果の解釈
下村 大樹（天理よろづ相談所病院）
- 4) DIC 関連分子マーカーの経済効率を考えた適正使用
小宮山 豊（関西医科大学／シスメックス）

シンポジウムⅣ：感染症検査の自動化

司会：柳原 克紀（長崎大学）、萱場 広之（弘前大学）

- 1) 総論：微生物検査における自動化の現状とこれから
三澤 成毅（順天堂大学）
- 2) 自動細菌同定感受性検査機器について
清祐 麻紀子（九州大学）
- 3) 全自動核酸抽出増幅検査機器について
賀来 敬仁（長崎大学）
- 4) 自動化による感染症診療・感染制御への影響
山岸 由佳（愛知医科大学）

市民公開シンポジウム(JACLaS 共催)：医療・臨床検査における IoT：ビッグデータと AI

- 1) IoT と次世代医療 ICT 基盤：国の健康・医療戦略
藤本 康二（内閣官房健康医療戦略室次長）
- 2) ビッグデータと AI の利活用による臨床検査の未来
浅野 薫（シスメックス株式会社 取締役 常務執行役員）
- 3) 最新計測技術とデータ解析技術で見える新しい「脳科学」
池田 俊幸（株式会社日立ハイテクノロジーズ 代表執行役 執行役専務）
- 4) IoT 時代の医療現場の対応戦略：遠隔医療と自動診断支援
中島 直樹（九州大学病院 メディカルインフォメーションセンター長）

RCPC 1 & 2

世話人：本田 孝行（信州大学）

モーニングセミナー：検査のピットフォール 1 & 2

企画 中

機器・試薬セミナー

サテライトセミナー

ランチオンセミナー